

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693000131		
法人名	医療法人社団 千春会		
事業所名	せんしゅんかいグループホーム小春 (4階)		
所在地	京都府長岡京市今里庄ノ淵32		
自己評価作成日	令和4年11月29日	評価結果市町村受理日	令和5年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaisokkensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2693000131-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	令和4年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の趣味や得意な事などを聞き取り、自発性を高める取り組みを行っている。また、コロナ化で現在は中止しているが、施設内にあるデイサービスと協力し、外出行事や地域のボランティアに来ていただき入居者様の意欲向上・事業所の見えるかを図っている。現在は少人数で近所に散歩や買い物に出かけている。また、DASCとFIMを定期的に測定し本人の状況把握を行っている。複合施設でもあることから、デイサービスにPTIにが来られた際は、時間の許す限り入居者様の身体評価もしていただき、機能訓練の実施に繋げ有効に活用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「介護複合施設今里」の4階・5階にある2ユニット「グループホーム小春」は2017年3月に開設されました。この間利用者の入れ替えもあり、現在の入居者18名の平均年齢87歳、平均介護度2.2で、重度の利用者はおられません。この2年間、職員の提案により、日々のレクリエーションの充実と定例化に取り組みました。毎月作っている壁面飾りは見事なもので、玄関を明るく彩っています。クリスマスリースは居室のドアに飾っています。また、併設のデイサービスにいられている理学療法士の指導(毎週土曜日午後)を受け、集団体操や個別運動にも取り組み成果を上げています。事業所内の回廊型の廊下には、手すりが付いており絶好の歩行訓練スペースとなっています。コロナ禍で面会や外出規制は厳しいですが、できることを模索し利用者に充実した毎日を提供しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援を促し、残存機能を維持する事を目指し、機能訓練による機能向上を図ることを部署目標とし、個別ケアを実施している。	グループホームの理念は法人理念を継承し、パンフレットに明記している。今期は理学療法士の指導を受け、集団での運動や個別運動への取り組みと、日常のレクリエーションを充実させて定例化できている。、DASCとFIMを4月、10月に測定し、本人の状況を把握しながら進めている。職員は個人目標も立案しており、6か月で振り返り、期末に総括をおこない法人に提出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限り、本人の趣味趣向に支援し本人の意欲を高め自立支援に努めている。	町内会には参加しているが、回覧板は回ってきていない。地区の納涼祭や運動会、事業所に家族や地域の方を招いての夏祭りはコロナ禍のため中止である。その中で、自治会主催の「今里サロン」が月2回開催されている。コロナ禍で利用者は参加していないが、職員が参加し、運動指導や認知症の話など実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、中止している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、中止している。	会議は併設の認知症デイサービスセンターと合同で開催している。メンバーは、家族数人、自治会長、地域包括支援センター職員であるが、現在は職員のみである。事業所からは利用者の状況、研修、アクシデント・インシデントなどが報告されているが、簡単に書いてある。会議メンバーに送付しているが意見や助言は得られていない。家族には会議への案内と議事録を送付している。	会議の内容を詳細に記入し、会議のメンバーには、意見や助言をお願いされてはどうでしょうか。出席者欄にメンバー名を記入して、会議を成立させることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の為、中止している。	運営推進会議議事録は、1年をまとめて送付している。事故報告は出向いて提出している。諸会議もコロナ禍で中止であり、再開の連絡はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍の為、他の事業所との合同では実施していないが事業所内では現状の確認と未然に防ぐ検討を行い、職員全員の意識を高める。	令和2年から「身体拘束防止委員会」を開催している。「利用者対応チェックリスト」などで、年1回自己チェックをし、ほぼ、守っているとの結果がでているが、気になる職員の言動は、個別に管理者から指導している。夫婦で入居している奥さんを名前で呼ぶが「ちゃん」は禁止している。センサーマットの使用者の家族からは、同意書を得ている。玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で行っている年間計画の研修ののっとり、全職員に虐待防止について学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内でのミーティングで権利擁護などに関する勉強会を実施し、知識を深め活用出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	原則的には入居前に見学をしていただき、書面と通じて本人、家族に説明を行っている。また、体験入居も実施しており、本人家族共になるべく不安を取り除けるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	可能な限り家族様同席でカンファレンスを実施し意見や要望を反映できるよう心がけている。	コロナ禍で家族会は中止している。利用者からの要望は「苦情・要望シート」に書き、家族からの相談は「相談記録」に書いている。情報共有や検討は、ミーティング会議でおこなっている。法人が顧客満足度調査（年1回）を実施し、結果は事業所にも届いている。「機能訓練を担当している職員の介護技術の程度が知りたい」の要望があり、勉強会の実施内容を返答している。利用者からの「髪を切りたい」「入浴のリフトはいや」などについて、検討し対応している。「おやつを買いに行きたい」との要望には、2～3人でパン屋さんに行き選んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ミーティングを実施し職員からの意見を吸い上げている。	職員の意見を聞き取る機会は、ミーティング会議や申し送り時、個人面談（年3回）など多くもたれている。職員は個別目標をもち、力量評価をし、業務に励んでいる。職員の発案で、日常のレクリエーションの充実と定例化に取り組んだ。また、理学療法士の指導を受け、集団体操や個別運動に成果を上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	4か月に1回面談を行いモチベーション向上に努めている。また力量評価表に基づいて本人のスキルの把握を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に一度の力量評価を行いスキルの向上に努めている。内部はもちろん外部の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会があるが、コロナ禍の為、中止となっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談の機会を持ち本人、家族との関係が築けるよう努めている。また少しでも不安が軽減出来るよう体験入居も実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族へのヒヤリングもを行い、入居に至った経緯や情報収集を行っている。また入居されてからの要望なども聞き取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具や医療面のバックアップも含め様々な面からアドバイスを行い、必要としているサービスの見極めを行っている。理美容や買い物も必要であれば支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り、本人の趣味趣向に支援し本人の意欲を高め自立支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と疎遠にならないよう細目に連絡を取りあい情報の共有を図っていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院への外出や面会も、コロナ禍の為、ガラス越しではあるが、期間や時間を決め実施している。	夫婦で入居されている方が3組おられる。コロナ禍で友人や知人との面会ができないが、ハーモニカサークルの友人とは電話で話している。家族との面会は玄関でドア越ししており、馴染みの美容院に家族と出かけている方もいる。「グループホーム小春だより」で利用者の近況を写真入りで書き、家族に送付している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者のADLに合わせ、それぞれの役割や活動を行ってもらい共同して作業を行うことで人間関係の構築に努めている。誕生日会などを実施し自然と交流できるイベントを実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻られる際は、家族や介護事業所と連携を図り、自宅への一時帰宅なども行い、スムーズに在宅生活が送れるよう支援する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活から、本人の意向をくみ取り、生活に反映するようにしている。	日常の生活の中で食事時間や就寝時間は決めていない。各利用者の習慣に合わせている。「テレビが見えにくい」「塗り絵は好きにとるのではなく、平等に手渡してほしい」「雑誌が欲しい」など、利用者の要望はある。職員間の情報共有は申し送りノートや業務日誌に書き申し送っている。雑誌は家族に依頼している。ベッド上で生活されている方で意思表示の困難な方がおられ、職員は表情での読み取りをおこなっていた。最近、ご主人が入居され、にこやかな笑顔が増えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず面談を行い、生活歴や習慣、趣味なども含めた情報を収集し、施設での過ごし方に反映している。		

京都府 せんしゅんかいグループホーム小春（4階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や排泄状況、水分摂取量等細目に記録に残し、本人の身体面・精神面・活動面の把握に努めている。定期的にFIM・DASCの測定を行い、数値的な把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度のカンファレンスを通じて問題点を抽出し、本人や家族の意見を反映しやすい体制を整えている。	全体ミーティングで毎月カンファレンスを実施し、3か月ごとに見直しとモニタリングをして、介護計画を家族に送付している。課題に沿ってサービス提供をしているが、サービスを受ける利用者の反応を読み取れる記載が少ない。介護記録は利用者の様子を経時記録で記している。	介護計画の援助メニューに対し、妥当性の検証が弱い。毎月のカンファレンス時に、各介護課題ごとに「スタッフの援助が計画に沿っておこなわれているか・サービスの内容は適切か・要修正か・目標達成の状況を見る・ご利用者（家族）がどのように反応したか（満足度）・今後の対応」など、項目に沿って話し合うことをお勧めします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や状態をフローシートに記載し、最新の情報を共有できるようにしており、精神面の気づきも個人記録や業務日報に細目に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナ化のため中止しているが、日中はデイサービスで行われる、外出行事やサークルに参加していただき入居者のニーズに最大限に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室や喫茶店なども利用し、地域との関わりを持ちながら生活できるよう努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人、家族の希望を優先し選択してもらっている。また、法人の訪問診療を希望される方もおられ医療と介護の双方から支援する事が出来ている。	協力医療機関の訪問診療は2週間に1度あり、医師には24時間携帯電話で指示を得ることができ、往診も可能である。在宅時からのかかりつけ医の継続受診者も数名おられ、基本は家族同行だが、都合がつかない時は職員が同行している。家族に「受診時情報連絡票」を託し、情報を提供している。希望者には、歯科医の往診もあり、歯科衛生士から週に2～3回口腔ケアがある。夜間や緊急時の救急車での搬送時は、管理者が同乗している。	

京都府 せんしゅんかいグループホーム小春（4階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師が在申し体調面ノ管理を行っている。また、バルーンやストマなどの管理もしており、必要であれば、主治医と連携を図っている。夜間はオンコール体制で連携を図れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や計画作成担当者を中心に病院関係者と情報交換を行っている。また、受信時には書面での情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りも行っており、主治医や家族との連携を密にチームとして取り組んでいる。	「重度化した場合の対応に係る指針」「看取りに関する指針」に沿い、入居時に説明している。職員は年1回研修を受け、外部研修にも参加し、ミーティング会議で伝達している。入院を希望される家族もおられるが、昨年1人看取りをしている。家族は3日前から付き添い、最期の時を共に過ごしている。その際希望すれば宿泊することも可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生時の研修を実施しており適切に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練はコロナ禍の為参加できないが、施設内での防災訓練にも入居者とともに参加し避難を行っている。	年2回消防訓練をしているが、コロナ禍で消防署の立ち合いはない。各種マニュアル、ハザードマップ、フローチャートは作成しているが事業継続計画は作成中である。AEDやさすまも用意している。職員への連絡は電話とSNSの両方を使っている。水害については安全な場所であり、福祉避難所の指定を受けており、備蓄もある。現在はコロナ禍のため地域の方に訓練の声かけをおこなっていない。職員は地域の年1回の消防訓練大会に参加し、準優勝している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室にトイレの設置や入室の際には必ずノックをするなど徹底しプライバシーに配慮している。また言葉使いには常に意識しケアを行っている。	法人として接遇、人権擁護・倫理の研修があり職員は学ぶ機会をもっている。言葉使いに関しては、自分が言われたくないことは話さないようにし、特に声の大きさに留意している。日ごろから丁寧な言葉を使い、さん付けで呼ぶようにしている。職員のSNS(グループライン)は連絡事項のみに使用し、個人のことは記入しないようにしている。職員は「利用者対応チェックシート」で振り返りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選定や飲み物の選択、レクリエーションの参加等強制ではなく、本人の希望に沿って実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	プログラムを最低限にし、その時の体調や希望に沿って過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選定や、季節に合った衣類を家族に持ってきてもらい、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯や味噌汁をよそってもらったり、食器の洗い物等えおお手伝いしてもらっている。おやつ作りなどはコロナ化の為中止している。	食事は系列の事業所からお弁当と汁物が届き、温めて提供している。管理栄養士がミキサーや刻み食にも対応している。ご飯のみユニットで炊いている。コロナ禍で利用者に調理にはかかわってもらえないが、テーブルやお皿拭きに役割りがある。食事の時は希望に合わせ、テレビをつけたり音楽をかけている。座席は希望を聞き、また状況を見て変更している。現在コロナ禍で調理レクリエーションは一切していない。おやつは個包装されたもののみと徹底している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を行い、カロリー計算された食事を提供している。腎臓食や膵臓食やミキサー食やトロミ食等にも対応が可能である。		

京都府 せんしゅんかいグループホーム小春（4階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを心がけている。また口腔内に異常が生じた場合は協力歯科機関と連携し訪問してもらうこともある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人一人の排泄の回数、頻度、量等を把握するよう努めている。	全員に排泄確認をして、トイレの間隔が空いた時は排泄チェック表を見て声がけしている。夜間、ポータブルトイレは置かず、居室内のトイレに職員が付き添い誘導している。布パンツ着用者は、毎日自分で着替え洗濯に出している。下剤と排便について検証し、病院学会で研究発表をする予定である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や1日2回の運動の機会を設け、便秘の予防に努めている。またドクターとも連携を図り便秘の予防、改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に合わせて入浴を行っている。基本的な入浴日は決めているが、臨機応変に対応している。	週2回、午前中の中の入浴を基本としているが、状況によって午後に入ることもある。お湯はその都度入れ替え、ゆず湯やしょうぶ湯などの季節湯や入浴剤も使用している。拒否のある方には対応する職員を替えたり、時間をおきタイミングを見て誘うなどで対応できている。釣り下げ式のリフトを使って入浴する方もおられる。リフト利用者が自力での入浴を希望され、理学療法士の指導を受け、普通の入浴方法に変更した例もある。また、重度になってもデイサービスの機械浴で入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な方には昼寝の時間を作り、ゆったりと落ち着いて過ごしていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを作りいつでも確認できるようにしている。小さな気づきを大切に、状況に応じて主治医に連絡を取り薬の調整なども行っている。		

京都府 せんしゅんかいグループホーム小春（4階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや、洗濯物たたみなどのお手伝いやポーリングやゴルフ等のゲームの参加で交流し活発に過ごしていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為中止しているが、併設のデイサービスとの交流や散歩、ドライブ、喫茶店などに出かけるなど外出するプログラムはある。	暖かい日は事業所の周りの畑の道を散歩している。車椅子の方も一緒にでかけている。近所のパン屋さんに買い物に行くのも、大きな楽しみになっている。ドライブや外出行事はできないが、春には近くの桜を見に行ったり、ピロティでおやつを食べたりと、できる範囲で楽しみをみつけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事業所で預り出納帳で管理している。買い物やお出かけの際は、自ら支払いしてもらえるよう心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次ぎ直接本人と話していただいたり、必要に応じて電話をかけたりにしている。手紙も本人のお渡しし、返事を書かれれば郵送で送るなど行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどの共有スペースは室温計を設置し環境管理を行っている。季節感を感じられるような雰囲気作りにも努めている。	中庭を囲んで回廊になっており、リビング全体が明るい。北と南にリビングがあり、南がキッチンとダイニングとして使用されている。北のリビングはソファやテーブルが置かれ、壁一面の掃き出し窓からは田園風景が望める。こちらのベランダにはプランターも置かれ、ちょっとした野菜や花など植えて楽しめる。両リビングには壁面にボードが配置され、利用者が制作した壁飾りや今日の日にちが貼りだされている。大きな空気清浄機も2台置かれている。掃除は清掃担当の職員が週5日おこない、きれいに保たれている。	

京都府 せんしゅんかいグループホーム小春（4階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	メインリビングでは他者との交流やイベント等を実施し、サブリビングでは読書やゆっくりと過ごせる環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などに関してはなるべく慣れ親しんだものを持参していただくよう家族に依頼している。また、アルバムなど、昔を回想出来るものも持参していただき居心地の良い場所になるよう努めている。	入り口には木目の落ち着いた表札が掲げられている。手作りのクリスマスリースもかわいい。居室には個別の洗面台とトイレが配置され、ベッド、エアコン、カーテン以外は各自好みの家具やテレビなどの電化製品を持ち込んでいる。コロナ禍で全室が感染予防のための陰圧室にリフォームされた。利用者は日常のほとんどをリビングで過ごす。トイレは自分の部屋のものを使用している。居室の掃除は隔日で清掃担当職員がして、清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かるような工夫や壁沿いにはすべて手すりを設置し、なるべく自立出来るよう環境を整えている。		